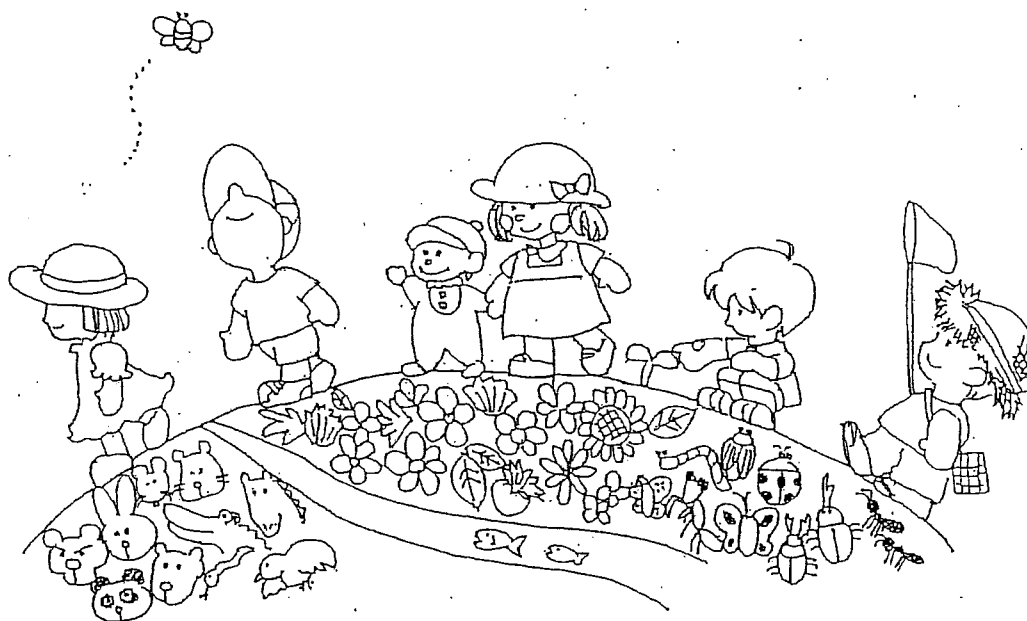


子育て支援に取り組む地域 活動推進シンポジウム in 三重



◆とき

平成17年12月11日(日)

◆ところ

ジェフリーすずか

◆主催

財団法人あしたの日本を創る協会
三重県新生活運動推進協議会

◆後援

独立行政法人福祉医療機構

◆協賛

鈴鹿市

平成17年12月11日

「地域における子育て支援活動の重要性について」

四日市大学総合政策学部

谷岡 経津子

1. 生涯学習とボランティア活動

生涯学習は、人々が、自発的意志に基づき生涯にわたって行うことを基本とするもので、意図的・組織的な活動として行われているだけでなく、人々の多様な活動の中で行われるものであり、幅広い範囲にわたっている。

ボランティア活動は、個人の自由意志に基づき、その技能や時間等を進んで提供し、社会に貢献することであり、ボランティア活動の基本理念は、自発（自由意志）性、無償（無給）性、先駆（開発、発展）性にあるとする考え方が一般的である。

このような生涯学習とボランティア活動との関連は、次の三つの視点からとらえることができる。第一は、ボランティア活動そのものが自己開発、自己実現につながる生涯学習となるという視点、第二は、ボランティア活動を行うために必要な知識・技術を習得するための学習としての生涯学習があり、学習の成果を生かし、深める実践としてボランティア活動があるという視点、第三は、人々の生涯学習を支援するボランティア活動によって、生涯学習の振興が一層は図られるという視点である。これらの三つの視点は、実際の諸活動の上で相互に関連するものである。

ボランティア活動は、このように、生涯学習と密接な関連を有するとともに、その活動は、現代社会における諸課題を背景として行われるものであることから、豊で活力ある社会を築き、生涯学習社会の形成を進める上で重要な役割を持つ。そのため、あらゆる層の人々が学習の成果をボランティア活動の中で生かすことができる環境の整備を図ることが必要である。

2. 生涯学習とは・・・キーワード⇒「学びの場と形を（スローエデュケーション）変えよう」

「人々が生涯にわたって行う学習を援助、支援するためには、これまでの学校中心の考え方を改め、生涯学習の観点から学校教育を改善していくとともに、家庭、学校、社会の様々な教育機能を相互の関連を考慮しつつ、総合的に整備充実していくことが必要である。

家庭教育、学校教育、社会教育の全期間、すなわち生から死までの全生涯を一つの全体として把握し、その全生涯を継続しての人間形成・自己教育をいう。

3. 子育て支援の重要性

乳幼児から青少年にかけては、人格形成に最も大切な時期である。この時期には、家庭・学校・地域社会がお互いに連携して子育てに関心を持ち、子供たちが夢や希望をもって健やかに成長していけるよう支えて行かねばならない。

しかし、社会の変化や子育て環境の変化に伴い家庭の教育力の低下が大きな課題となっている。また、地域から孤立し、氾濫している情報の的確な判断基準をもてず、子育てへの自信を失っている親も増えている。

具体的には、家庭教育や子育てに関する諸課題を地域の人々とともに考え、支援できる力を身につけた指導者を養成する必要がある。

地域の人々による家庭教育支援を求めると共に社会全体で子供を育てていこうとする気運を熟成するための講演会等の開催が望まれる。

4. 長寿社会において賢い生き方

☆自己の向上、生き甲斐

☆一生現役

☆人生は7掛け、年齢も7掛、今に生きるコツ

5. 高齢者の知恵を生かした学びのコミュニティづくり

☆介護不要の究極の生涯学習＝伊達に年をくわず、社会的コストをかけずに生涯、生き抜くコツ。

☆高齢者や専門的な知識、技術を有する地域の人たちの活用。

☆高齢者が生き甲斐をもって生活できる町づくりにつなげていくことの必要性。

☆生涯学習はしあわせづくり運動。

☆市民一人ひとりが持ち味を発揮する町づくり。

☆社会、人生に触れ合うすべての条件は一人ひとりの自己学習の教材である。

6. 「子どもの居場所づくり新プラン、地域子ども教室」の意味

働く女性の増加や核家族化の進行などから、子育てが困難な時代となり、深刻な育児不安や子どもの虐待の記事が取り上げられるなど大きな社会問題になっている。そのため、乳幼児を育てる家庭や、それを取り巻く社会環境の整備・充実などの社会的支援が強く求められている。

子育てネットワークは（1）育成期（2）交流期（3）継承・発展期の3時期に分けて組織し、地域に根付くことができるように展開していく。

また、子育てを終えた親の貢献を考えたい。家庭支援、先輩ママや運営を手伝うボランティアなどが受け継がれるような場を設けていく。

キーワード⇒「学びの場と形を変えよう」「新しい発見と大きな感動」

☆今、子ども達はバーチャル体験に慣れてしまっていて、体験が伴わないために、いろいろな問題が起きている。五感重視の実体験を重視する。

参加者の主体的な「気づき」が必要である。

☆子ども達に、今必要なものは従来の学びの場ではなく、新しい学びの場。

☆子ども達に「何を」を教えるかが問題ではなく、「どのように教えるか」が大きな課題

☆教師と生徒が対峙した教室の形だけが教育の場ではない。

☆子ども達に自分自身で学び方を学ぶ機会をつくる。

☆子ども達の居場所づくりが究極のねらい。

7. 現代を取り巻く幼児と親との関係

(1) ピンチの時こそ、父親の出番です！！

今、わが国は、家庭で夫の影が薄くなったという問題が起こっている。昔は「親がいなくても子が育つ」とか、「子は親の背中をみて育つ」などともいわれ、日本の国は世界でも育児の上手な国であった。

しかし、日本が高度成長期に入って、この事情は一変した。今、日本は世界でも育児の下手な国になっている。

日本の経済成長期は、あまりにも急速であまりにも異常でしたので、政治も経済もそして育児もその環境の急変にふりまわされ、みな申し合わせたように悪化してしまった。

子どもの育つ環境という点からみると、大家族があり、地域社会の連帯がしっかりしている時代には、育児は母親任せで万事うまくいったものである。

しかし、現代の日本のように、子どもの育つ畑に相当する環境が「文明国型の崩壊」をきたしてしまい、核家族が多く、近所づきあいも少ない「集団生活環境」の壊れてしまった育児環境の社会では母親の努力だけでは、子育てが非常に困難になったのである。

ピンチの時こそそれを切り抜けるは母親の役割ではなく、夫婦の役割なのだ。ところが、日本のオヤジは子育てがピンチの時になっても、役立たずの親、責任をとらない親が随分多いのである。

子育てがピンチの時、オヤジがしっかりそれを乗り越える責任をもてば、母原病は現れないことが多い。

(2) ゴリラのオリとそっくりの日本の家庭

咳が止まらなくなったゴリラから見て、日本の子ども達も、この

ゴリラのように栄養過剰にさせられ、冷暖房の効いた部屋で生活し、運動不足気味に育てられる時代に入っていったのである。

今、日本の子ども達だけでなく、大人にまで、数百種類におよぶ文明病が現れている。この現象はオりに飼われたゴリラに現れる現象と全く同じものである。

8. キーワード「学びのコミュニティづくり」「学社融合」

☆家庭・地域の教育力への愛する気持ち

☆地域素材の教材化の活用

9. ジェンダーフリーと生涯学習

(gender)とは、生物的性差ではなく、社会的、文化的性差のことである。解っていても固定観念でみていることに気づくことがある。例えば、友人の子どもの入学祝いのランドセルの色は女の子は赤を、男の子には黒を買ったあげ、出産祝いを贈るときは性別を聞き、お祝いの品物の色を決めていた。この場合には好みの色を聞くべきだ。

奥さんが先に亡くなると「大変ですね」と言われるが、夫が先に亡くなっても「大変ですね」と言われない場合が多い。かえって元気になるようにみえますが気のせいでしょうか。

男女の良きパートナーシップを作るために、生涯学習として系統的に学習しないと自分で気づかないうちにジェンダーにとらわれている。

超高齢社会、少子化社会に対応でき、輝いて生きていく応援するのが生涯学習である。

10. 地域づくり推進の視点と手法について 地域学⇒人づくり

☆今こそ自立した市民になること。学びあう人間関係が広がれば、失われかけていた地域の連帯感が生まれる。

☆一人の人間としての、または、一人の社会人としての女性自身の意識改革

平成11年6月から施行された男女共同参画社会基本法の基本理念のうちの一つに「政策などの立案及び決定への共同参画」うたわれている。

子育て支援グループへの期待は、ムード、やる気の熟成 $2 \times 2 \times 2 = 8$ の論理 2=やる気、郷土愛 2=チームワーク 2=黒子に徹するリーダーシップ (汗、知恵) ・目標明示、評価

11. NPO、ボランティアの重視

ボランティアに必要な「あ・い・う・え・お」の精神

あ・・・・・・遊び心

い・・・・・・粋な生き方がしたい

う・・・・・・浮き沈みがある(トラブル)→継続な力なり

え・・・・・・笑顔を忘れずに(生涯学習とは生涯が苦習から生涯楽習へ)

お・・・・・・・・思いやりをもって
ボランティア組織、運営のための「か・き・く・け・こ」
か・・・・・・・・簡単なことから始める
き・・・・・・・・気楽な気持ちで
く・・・・・・・・来るものは拒まない
け・・・・・・・・けじめをつけて
こ・・・・・・・・こだわりをもって

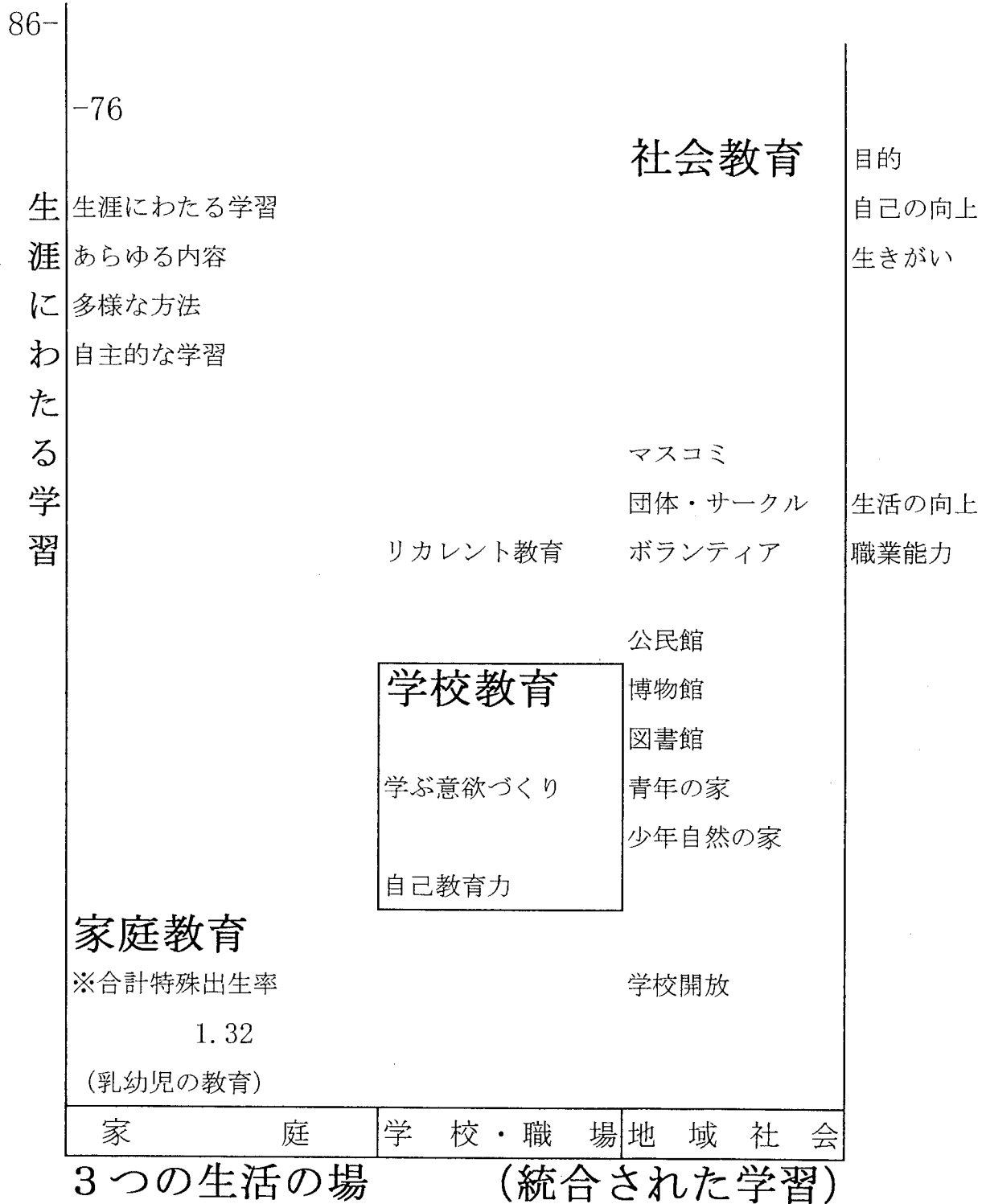
1 2. 子育て支援活動システムの構築について

各種の団体、サークル、子育て会員のリーダーたちの多くは企画力があり、地域に対する愛着をもつ人が多い。実行力と斬新なアイデアが期待できる。

他地域の子育て支援グループとの連携により活性化を期待したい。その意味において本日の大会は意義がある。

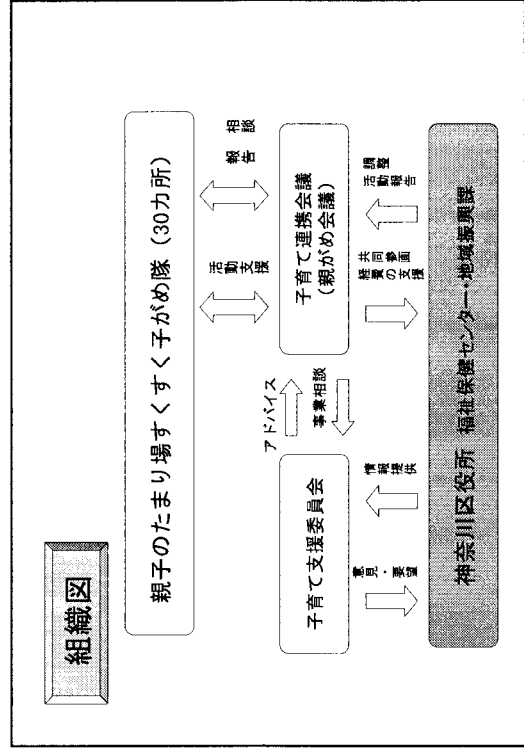
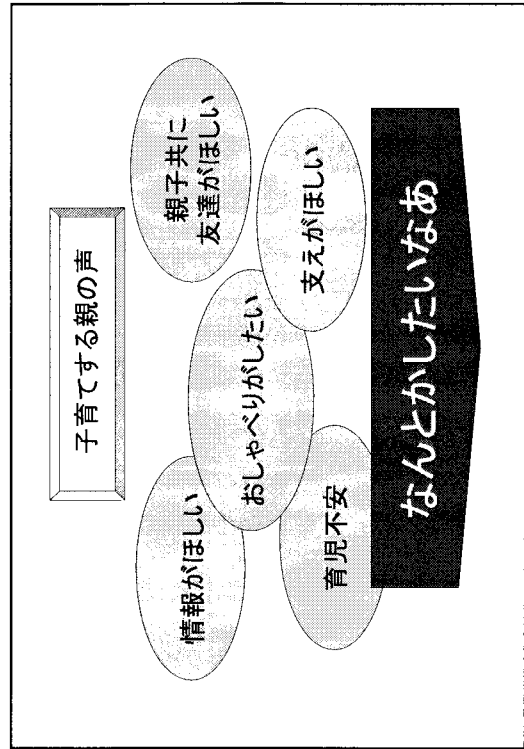
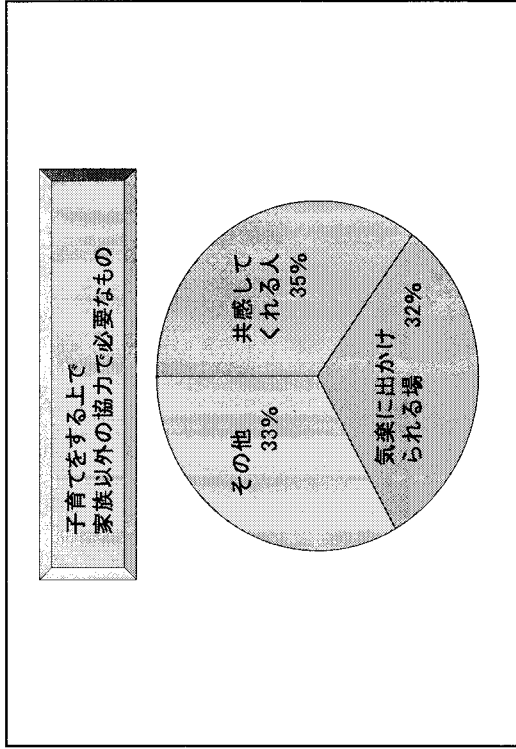
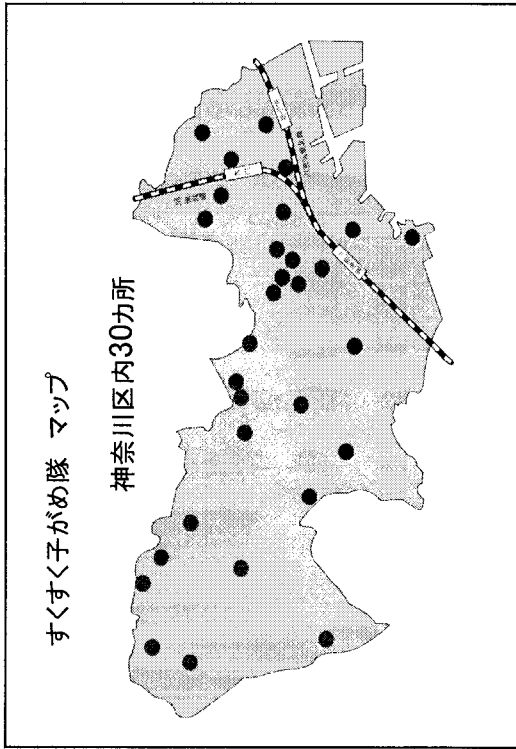
生涯学習の場

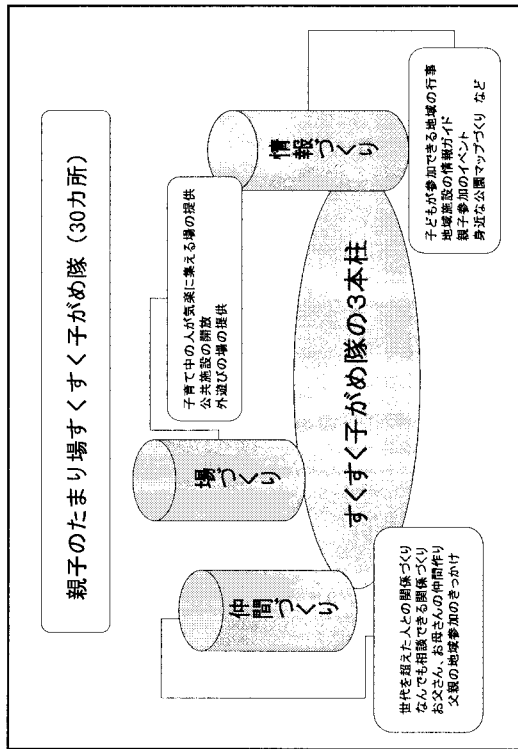
(図 1)



神奈川県を子育てが楽しい”まち”にするために

すくすくかめっ子





特色

- 町の人が支えている
- プログラムがない
(教室型にしない)
- いつ来て、いつ帰ってもいいよ
(出入り自由)
- 異世代交流ができる

親子のたまり場に参加してみても

疑問や心配ごとを
同じ月齢ぐらいいの子を持つ
お母さんやボランティアの方に
話したらスッキリ!

誰も知り合いの無い中
きましたが、子かめ隊の方に
声をかけていただき楽しく
過ごせました

とても楽しくお友だちとも
ゆっくり話ができ、
ストレスが発散できました

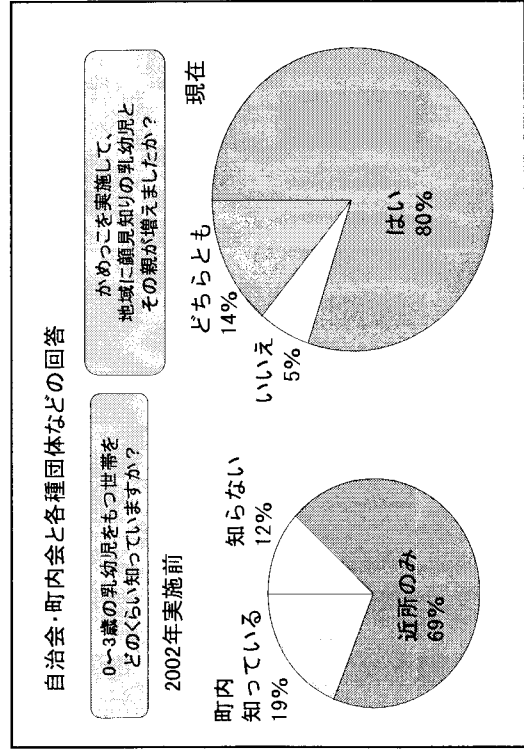


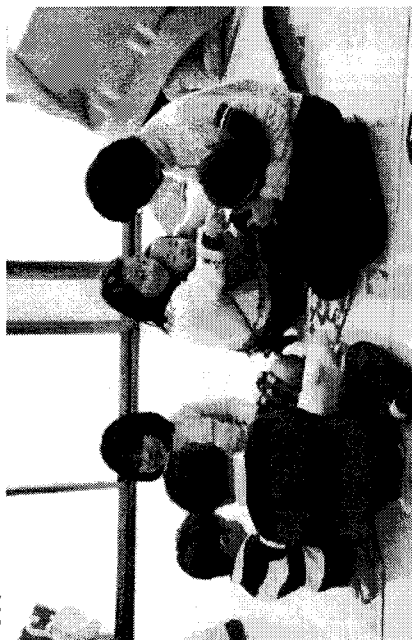
写真3



写真4



写真5



これからの課題

- ① 3歳児～中学生の子どもたちの居場所をどうするか？
- ② 若い世代の支え手をどう増やすか？
- ③ 地域全体への認知を高めるには？

子育て支援に取り組む

地域活動推進シンポジウム in 三重

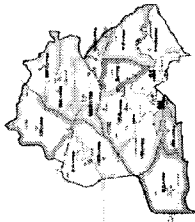
地域密着型ネットワークからの報告

子どもが育つまち天白「天白子ネット」

奥田 陸子（愛知県名古屋市天白区）



天白区の特徴



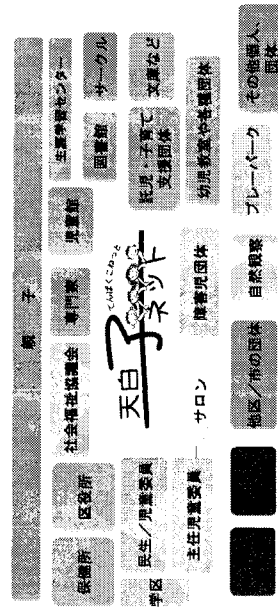
名古屋市の東端、
自然が残る郊外の住宅地
人口15万人、平均年齢39才の若い街
0-14才 15.7% (名古屋市13.8%)
65才以上14.5% (名古屋市18.1%)
昨年、区政30周年を迎えた

天白の子育て事情

- 初めて子育てする親、転入者が多い
- 0～3才の未就園児の親が孤立感を深める
- 「友達がほしい、子連れで出かけたい、でもどこに何があるかわからない」
→ 「これがほしい」という
当事者の思いを反映させた活動
- 30年前から子育てを考え、
活動を重ねてきた世代と連携
- 生涯学習センターの呼び掛けで集まる

子ネットの設立 2001年4月

それぞれが、それぞれと手を結びあうネットワーク



「つながぐ」～子ネットの活動～



- 情報発信
- 交流
- ネットワーク
- 親子を見守るのは各団体。
- 子ネットは親子と各団体をつなぐ役。
- 行政の協力もお願いする。

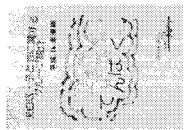
情報発信



天白子育て情報誌「PAKUっ子」

ホームページ

グループ紹介冊子



子育て情報コーナー展示

交流



にここ広場（月1回）



OKハウス

交流「天白おやこ子育て広場」

■ 組織を超えた共催～実行委員会形式

- 天白ステーション
- 社会福祉協議会
- 子育てグループ
- ブース出展
- 行政機関や主任児童委員も



多彩なブース



ハンドメイド体験講座



主任児童委員のブース



文庫一冊でも参加！

ネットワークの深化

- 情報の集約～「PAKUっ子」、冊子
- つながりを形に～イベント
- つながりの中から課題を探す
 - ～子育て支援関係者連絡会議
 - 連続学習会の実施など
- 天白の試みを広く外部に伝え、課題解決の糸口を探る
 - ～各種会議、シンポジウム参加

分野を超えて

- 子ども、自然、まちづくり
- さまざまな親子への理解
 - ～障害児

町内会、子ども会など個人レベルでは関わるが、ネットワークとしては今後の課題



世代を超えて

- 伝えていきたい天白の良さ



生活の知恵、地域作りの経験などを受け継いでくれる人が育って欲しい

地域のかたち

- 地域の事情によってさまざま
 - 核となる「しくみ」が必要
 - 行政・市民・専門機関がいっしょに必要なところには必要な支援を
 - まちの誰もが集える場所「たまり場」
- 子どもの育ちを見守る地域づくりを**

子育て支援に取り組む地域活動推進
シンポジウム in 三重
地域ぐるみで子育て支援

鈴鹿市の子育て支援について

- ☆ 鈴鹿市の主な子育て支援事業の概要は以下のとおりですが、これらは単独に実施されるのではなく、それぞれが連携してはじめて大きな効果を発揮するものだと考えられます。
- ☆ また、行政だけで実施する、ということではなく、できる人ができる事をしていただく、いわば参加型の事業展開をめざしています。
- ☆ かつての「共同体」という機構が薄れてきた現代で、「ていねいな子育て」を行うためには、お父さんやお母さんはもちろんのこと、皆さんの気持ちと力が必要です。

行政は、そうしたことを実践していただける「しくみづくり」を行っていきたいと考えています。

- ☆ いま、鈴鹿市が取り組んでいる子育て支援事業には次のようなものがあります。

1 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）

- ・ 昼間に留守がちな家庭の子供たちが、放課後も仲間と一緒に楽しく宿題をしたり、遊んだりする場を提供します。
- ・ 平成 17 年 4 月現在 市内 15 箇所で開催中。
- ・ これからも、各小学校区に最低 1 箇所の設置をめざし、計画を進めます。

2 乳幼児健康支援一時預かり事業（病児保育室 ハピールーム）

- ・ 病気回復期で、保育園などでの集団生活が困難で、なおかつ保護者が仕事などで家庭でも育児ができない児童を、一時的にお預かりします。
- ・ 平成 15 年 5 月から、南江島町の白子クリニック小児科に委託し、隣接した場所で事業を開始いたしました。

3 ファミリー サポート センター

- ・ 子育てを助けてほしい人（依頼会員）の要望に応じて、子育てのお手伝いができる人（提供会員）を紹介し、相互の信頼と了解の上で一時的に子どもをお預かりする、会員相互扶助組織です。
- ・ 特定非営利活動法人「こどもサポート鈴鹿」に業務を委託し、平成 17 年 3 月より事業を開始しました。

4 子育て支援センター

- ・ 子育て中の保護者の方が自由に集まれて、子どもを遊ばせたり親同士の情報交換をしたり、育児相談などができる。といった子育て支援の場として、平成16年8月にオープンしました。毎日、大勢の皆様にご利用をいただいております。
- ・ 子育てサークルや市民の皆さんから多くのご意見を伺い、運営方法やおもちゃの整備などの参考にさせていただきました。

5 つどいの広場事業

- ・ 「子育て支援センター」の簡易な形として、気軽に親子が集まって、遊んだり子育ての相談ができる場をつくります。
- ・ 専任スタッフも常駐して、皆さんの子育てを応援します。
- ・ 平成17年12月1日より、特定非営利活動法人「こどもサポート鈴鹿」に事業を委託して開館しました。

6 子育て支援総合コーディネーター事業

- ・ 子育てに関する情報の収集や提供を通して、子育て中の皆様に、子育て支援サービスを円滑に利用していただけるようにするためのシステムです。
- ・ 現在、コーディネーター2名を子育て支援センターに配置し、関係機関や団体などとネットワークを組みながら、事業を進めています。

7 保育園・幼稚園

- ・ 市内の公私立保育園・保育所・幼稚園では、単に「子どもをお預かりする」ということ以外にも、園庭解放や地域活動事業、子育て支援センター事業などを行っています。
- ・ 通常お預かりする時間を超えての「延長保育」や「一時保育」など、保護者の方の需要に応えられる体制も整えるよう努めています。

☆ 鈴鹿市次世代育成支援行動計画

- ・ 以上のほかにも、市内の様々な団体や行政各課の「子育て支援」事業を進めるうえでの指針とするために、平成17年3月には「行動計画」を策定いたしました。